

研究課題	2 先端技術を活用した顕著現象の予測精度向上に関する研究
研究期間	令和8年度～令和10年度（3年計画第1年度）
実施官署	札幌管区气象台、仙台管区气象台、山形地方气象台、福島地方气象台、水戸地方气象台、 銚子地方气象台、富山地方气象台、金沢地方气象台、長野地方气象台、大阪管区气象台、 福岡管区气象台、鹿児島地方气象台、福岡航空地方气象台、気象庁大気海洋部予報課
担当者	（札幌管区气象台）鳥山暁人、倉橋永、小泉創大、北川澄人、金盛友香、橋口直弥、 新津賢也、関原孝俊、齋藤直幸、小迫茉里香、高島大聖、榎本比呂佳、日置真太郎、 湯浅惣一郎、判治慎之佑、倉井健太郎 （仙台管区气象台）中川巧一郎、正垣 宏洋 （山形地方气象台）松永崇 （福島地方气象台）渡邊拓夢 （水戸地方气象台）山口修平、中川卓弥 （銚子地方气象台）羽廣陽介 （富山地方气象台）津田雄輝 （金沢地方气象台）朝妻勇貴 （長野地方气象台）小林惇志 （大阪管区气象台）神野誠、枝元勝悟、山西孝宜、福家朱莉、朝比奈聡司、古矢真一、 高澤郁也、稲垣豪、藤瀬優一、井上晃輔、中村聡恵 （福岡管区气象台）小川浩司 （鹿児島地方气象台）簗添良輔 （福岡航空地方气象台）渡部俊輝 （予報課気象監視・警報センター）林真由
担当研究官	[気象観測研究部] ○小野耕介
目的	本研究では、MEPS・LEPSによるサブシナリオを利用した顕著現象の予測精度改善、さらには統計解析・機械学習を利用した顕著現象の体系的な理解を目的とする。以上を通じて、現業予測精度改善を目指すとともに、十分なリードタイムを持った注警報の発表を目的とする。これらの研究を通して、地方官署職員の数値予報・予測可能性に対する理解を深めるとともに、原稿執筆・発表を通じた技術力向上も目的とする。
研究の概要	顕著現象を主な対象としてその予測可能性を事例および統計解析から評価する。また、アンサンブル予測および機械学習等の先端技術を活用して、顕著現象の予測精度改善を目指す。
令和8年度 実施計画	<u>I. 初回全体打合せ（5月頃）</u> 研究代表者と参加者は個別の研究テーマについて、研究計画および手法を決める。それぞれの研究テーマについての業務上の問題意識と解決に向けた計画について、共同研究参加者全体の打合せにおいて解説する。これにより、他の参加者との研究上の共通点を確認することで、その後の情報交換を促す。 <u>II. 研究の遂行（6～10月）</u> 研究参加者は各テーマに沿って、研究代表者ととともに解析を実施する。研究の進捗確認および行き詰っている点等については、適切なタイミングでTeams及びWeb会議を実施して議論を行う。 <u>III. 第2回全体打合せ（10月末～11月）</u> 研究参加者より該当年度の成果について、共同研究内で報告を行う。本打合せで議論した内容を踏まえ、地方調査研究会用の原稿・発表資料作成を行う。 <u>IV. 調査研究会での発表・報告書作成（11～2月）</u> 地方官署では地方調査研究会での成果発表、気象研究所では報告書の作成を実施する。